

倶知安町に福祉共生施設を新設

法人が地域振興と福祉増進で事業展開

倶知安町中心部に福祉の共生施設を新設し社会福祉法人黒松内つくし園は、平成二十年度も福祉増進を柱にした地域振興を目標に各種事業を展開する。

目玉は倶知安町中心部に建つ旧病院施設を高齢者の認知症グループホームや障害者らの社会福祉支援ハウス、それに地域住民はもとより学童の保育的な要素も兼ねるサロン完備の総合的な地域交流センター（福祉共生施設）へ整備する。総事業費は約一億八千万円。地元倶知安町の希望に沿った事業も含まれ同町福祉計画の推進や倶知安厚生病院精神科の退院促進にも繋がるとして歓迎、期待されている。また黒松内町内でもしりべし学園成人寮のグループホーム「いずみホーム」は、利用者定員が一人増の七人とした新施設へ移転、今月七月から生活がスタートした。

倶知安町の共生施設は、同町南三西一の国道5号線に面する旧出間病院の築二十年の建物を土地も一緒に全面購入しての事業展開。一部地下の鉄筋コンクリート造り三階建て延べ一、三六九平方メートルの施設で、一階に現羊蹄セルプ内で事業展開する訪問・居宅介護事業所「つくしんぼ」が移転して事務所や相談室、会議室などで同共生施設運営の中枢を担う。一階には、共生型のコミュニテ



法人が福祉共生施設として事業展開する
倶知安中心部に建つ旧出間病院

して福祉の総合的な共生施設を目指す。

二階と三階は、それぞれ全室個室のユニットケア九人のグループホーム。また両階に障害者等対象の社会福祉支援ハウス等として各三室の計六居室が完備する。これら居室のほか談話室を兼ねる食堂、調理室、浴場、洗濯室、職員控え室などがあり、特に従来の病室を居室への変更のため工事は小規模ですむという。施設全体を地域に開かれた運営を目指すため地域の高齢者や障害者に

イづくりを目指してミニ図書館中心に学童保育も可能なスペースを確保して母子家庭等の働く環境の助長や地元町内会や福祉関係者の会議、研修の場に開放する。また在宅介護支援センター的な機能を持つ障害者の就労訓練活動の場、相談コーナー、そしてサロン（喫茶）も完備して施設利用者と地域住民の交流センターに

も開放するデイサービスの要素を随所に取り入れる計画だ。

この共生施設は、①定員九人の高齢者認知症対応型共同生活介護（認知症グループホーム）が二ユニット②定員六人の障害者等の社会福祉支援ハウス③居宅介護支援事業所④訪問・居宅介護事業所（現つくしんぼ）⑤地域交流スペース（共生型）⑥羊蹄セルプ障害者就労継続事業のサテライト型（喫茶店等経営）の六つから構成され、スタッフは羊蹄セルプの大代貴輝施設長を統括管理者に同セルプ職員の一部兼務のほかケアマネ等の施設運営に欠くことの出来ない人材は新採用で検討されている。

「福祉は困難を克服する努力と開拓精神が無ければ」と、この新事業への取り組み決意を語る広瀬清蔵理事長は、「俱知安は後志行政の中心。その俱知安で福祉での地域振興、そして活性化に少しでも役にたてれば最高なのだが」とも付け加え、この俱知安での新事業は既に五月末の理事会で承認され、六月二十日には土地、建物の購入契約も完了、準備は今年度いっぱいを見込んでいる。

知的障害者「いずみホーム」も新施設へ

知的障害者の社会復帰を目標にする当法人の共同生活援助事業。しりべし学園成人寮が、黒松内町内で四つのグループホームを展開しているが、その一つ「いずみホーム」が、七月から新しい建物に移転した。黒松内町黒松内五二に建つ築十年の木造サイディング張り二階建

て一二九平方メートルの民間住宅を約一千三百万円で土地付きで購入した。一階は居間兼の食堂、六畳和室、玄関ホール、浴室と洗面脱衣室、トイレ。二階は六畳三室と八畳一室、それに四・五畳の納戸とバルコニーなどで、灯油の集中暖房が完備されている。

黒松内町中心部の郵便局前にある従来の施設に比べ全体に明るく、ゆとりあるスペースのため町内の商店等で働く利用者たちも大喜び。移転に伴う工事は、利用者の希望で、二階にトイレを新設したため七月初旬に移転、完了している。この新事業は、湯の里黒松内の広瀬悦子副施設長への相談、話しがきっかけで、特に広瀬理事長の「利用者により良い環境の中で生活して欲しい」の強い思いが実現に拍車をかけたと言える。この広瀬理事長の利用者を思う気持ちと決断に対し父兄の会の「あいご会」（武知二三夫会長、会員百三十余人）が感謝の意として施設などの環境整備に役立てて欲しいと二年間で一千万円の寄付行為を決めている。



定員7人で7月から利用スタートした「いずみホーム」

「あいご会」（武知二三夫会長、会員百三十余人）が感謝の意として施設などの環境整備に役立てて欲しいと二年間で一千万円の寄付行為を決めている。

新施設長

「学ぶ」を基本に努力いたします



後志リハビリセンター
施設長 福士 憲昭

法人役職員の皆様、利用者の皆様、初めまして。福士憲昭と申します。この度、広瀬理事長のご配慮を賜り、七月一日より皆様の仲間入りさせていただきますことになりました。どうぞよろしくお願い致します。

私は、大学で障がい者福祉を学び、卒業後は障がい者に対する直接、または間接的な支援に約三十三年間携わってきました。しかし未だ浅薄・未熟な知識や経験の域を脱し得なく、今後も地域の方々や利用者、そして役員等の皆様の繋がりを通して学んで行きたいと思っております。

先日、広瀬理事長より伝統と歴史のある当法人の様々なお話しを聞くことができました。中でも「謙虚な姿勢で自らが学ぶ努力が大切」と強調されていました。私も「日々学び 生涯学ぶ」の言葉が大好きですが、この「学ぶ」というコンセプトを仕事の基本として努力して参りたいと考えております。

新施設長 リハビリセンター施設長に福士氏

法人の七月一日付人事で後志リハビリセンターの新しい施設長に福士憲昭氏（五九）が就任した。これにより施設長兼務だった武井光秋氏は、本来の法人本部事務局長の専任に戻る。

新施設長の福士氏は、障害者を中心に福祉に関わることと三十三年余り。主に社会福祉法人、または道立時代の北海道社会福祉事業団（札幌）の職員として指導、総務課長等を歴任して今年四月まで同法人の太陽の園（伊達市）総合施設長の職にあった。

決算 法人十九年度決算は総額二十六億円

第三二二理事会と二一回評議員会（五月二十八日に開催）で法人の平成十九年度事業報告案と収支決算案が原案可決された。収入計が総額二十五億九千九百七十三千六百九十三円になる十九年度事業活動収支などの決算は次頁に掲載。

表紙から 花壇整備で洞爺湖サミット歓迎

法人あげての取り組みで、各施設周囲はもとより黒松内町内の花壇整備にも力を注ぎ、広瀬理事長も利用者と一緒に町役場前の花壇で植え付けた。